

この道路は、私たちが美しくしています。

路線名：主要地方道 伊那インター線
団体名：アクセス通りを美しくしよう会

制度概要・団体の紹介

長野県では、平成15年度から、信州ふるさとの道ふれあい事業として「アダプトシステム」を実施しています。アダプトシステムとは、三者協定に基づき、里親（個人・地域住民団体など）がボランティアで行う歩道等の美化活動や、植樹帯の維持管理を、県と市町村が支援をする制度です。現在伊那建設事務所管内では40団体が協定を締結しています。

アクセス通りを美しくしよう会様は、昭和51年に伊那インター線(アクセス通り)が開通して以来、個々に美化活動をされていた方々が集まり、平成12年に設立されました。当事務所管内で最初にアダプトシステムの協定を締結してから現在に至るまで、ゴミ拾いや除草剤の散布、花の植栽や手入れ等、精力的に活動を行われています。

また、同団体は平成24年度に「道路河川愛護活動知事表彰」、平成26年度に「第25回みどりの愛護のつどい」において功労者国土交通大臣表彰をされるなど、活動が広く評価されています。



一問一答

回答者：小松 ^{コマツ ヒロシ} 宏 会長

Q:活動のきっかけは？

平成12年に沿道住民を中心に会を発足したが、そのころは補助金等がなく、活動が大変だった。平成15年に道路アダプトの存在を知り、県の担当者からも声をかけてもらったので協定を結ぶこととなった。

Q:活動への思いは？

アクセス通りは、伊那ICから訪れた人が最初に目にする道路。この道路がきちんと維持管理されていないと、がっかりされてしまう。そうならないように意識をして、活動に取り組んでいる。

Q:活動の成果は？

以前に比べるとゴミの量は各段に減っている。管理がしっかりと行き届いていれば、道路にポイ捨てされるゴミの量も変わってくる。

近年は子どものサッカークラブ、青少年育成会も交えてゴミ拾いの活動もしている。ゴミを自ら拾うことで、ゴミを捨ててはいけない意識を育てることができると思う。

Q:今後の活動への意見・要望は？

上伊那地域のアダプト団体で意見交換の場を設けてほしい。参加者の高齢化など、共通の問題や対応策を話しあう機会になるはず。

また、街路樹の剪定について、共通マニュアルを作成すれば、うまく街路樹の管理ができると思う。
-ご回答ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。-